

## 新島の火山活動解説資料（令和元年6月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気など表面現象の状況（図1）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約4km）による観測では、噴気は認められません。

#### ・ 地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動は観測されていません。

#### ・ 地殻変動の状況（図2-③④、図4、図5）

GNSS連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 新島 丹後山周辺の状況  
（6月13日、式根監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和元年7月分）は令和元年8月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

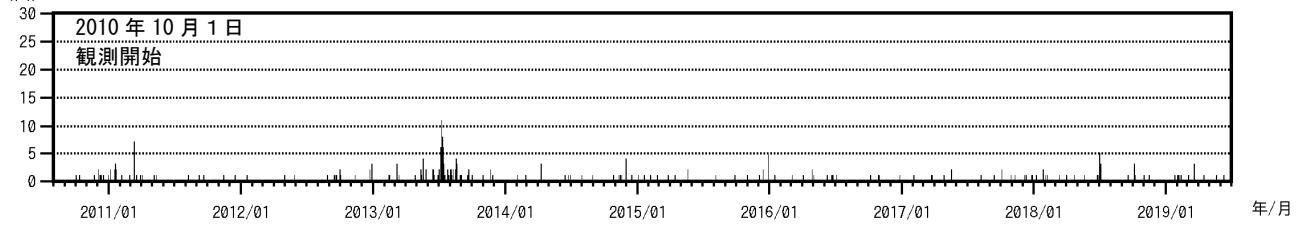
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

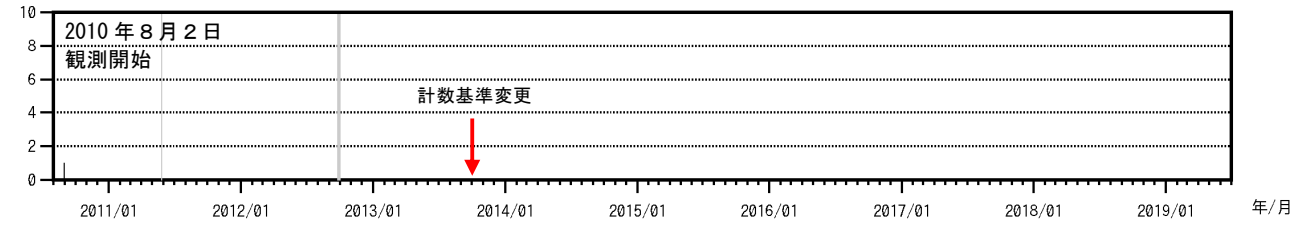
【計数基準の変遷】

A型地震	2010年10月1日（観測開始）～	瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内
B型地震	2010年8月2日～2013年9月30日	瀬戸山南振幅0.8 $\mu$ m/s以上
初期	2010年8月2日～2013年9月30日	瀬戸山南振幅0.8 $\mu$ m/s以上
変更	2013年10月1日～	瀬戸山南振幅4.0 $\mu$ m/s以上

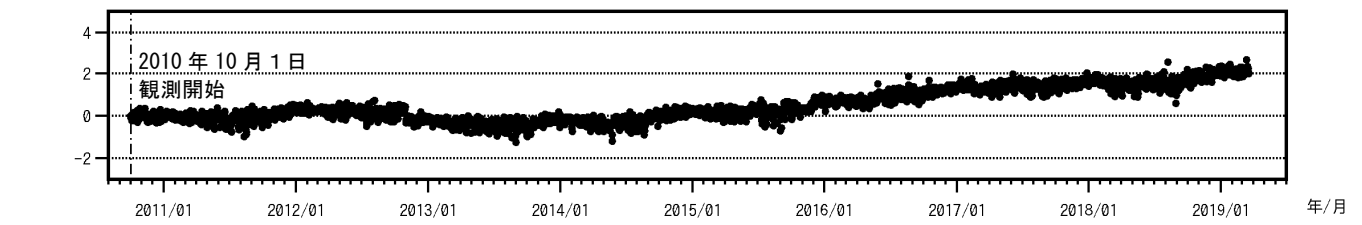
① 日別A型地震回数



② 日別B型地震回数



③ GNSS観測 若郷-新島（国）（基線長 6173m）



④ GNSS観測 式根島（国）-新島（国）（基線長 6092m）

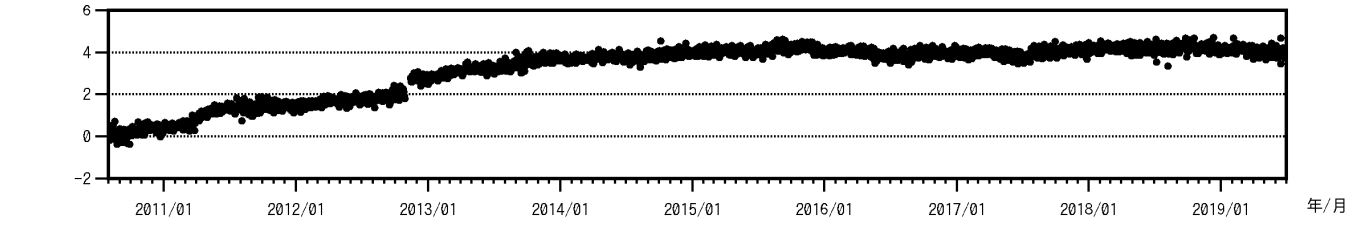


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2019年6月30日)

- ②のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示します。
- ③、④のグラフは図5のGNSS基線③、④に対応しています。

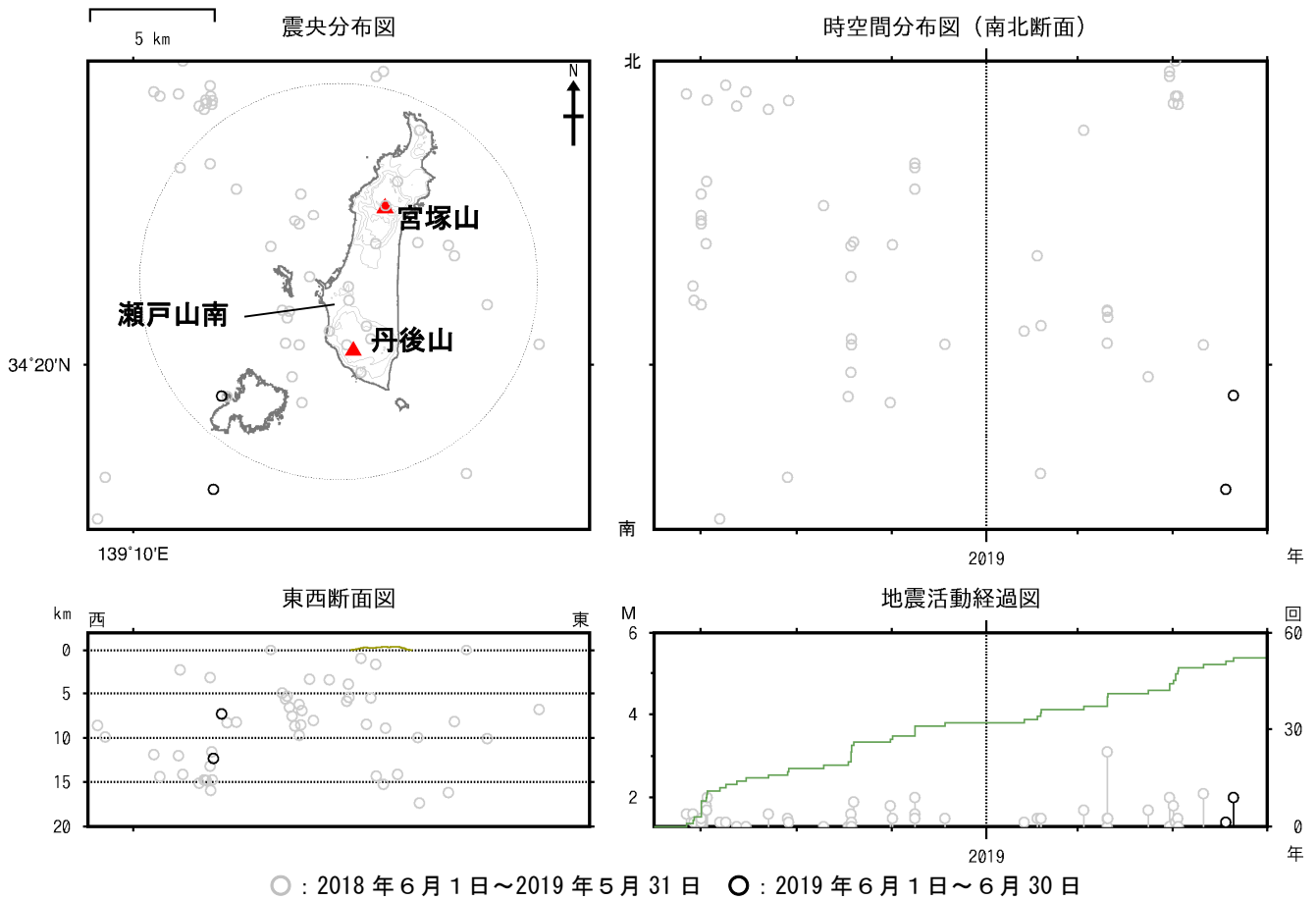


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2018年6月1日～2019年6月30日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象（瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。

震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。

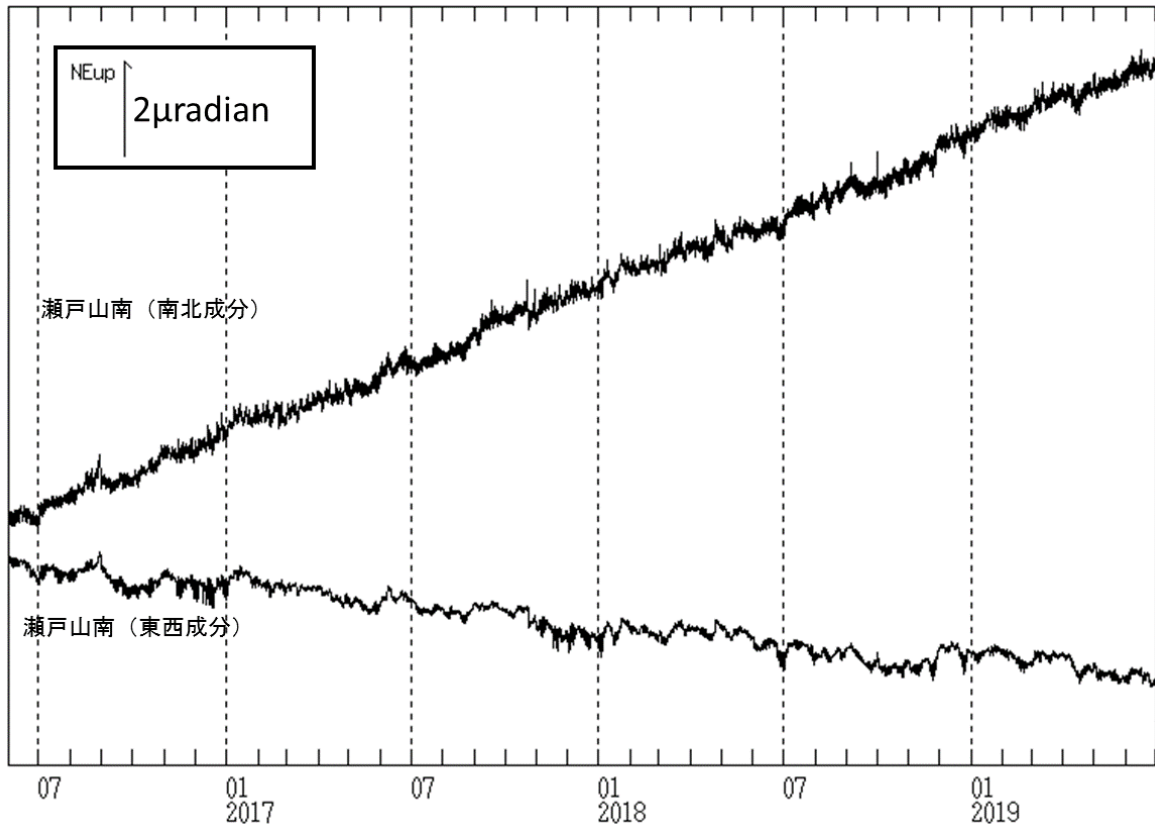


図4 新島 瀬戸山南観測点の傾斜変動（2017年6月1日～2019年6月30日）  
 ・火山活動によるとみられる変動は認められません。

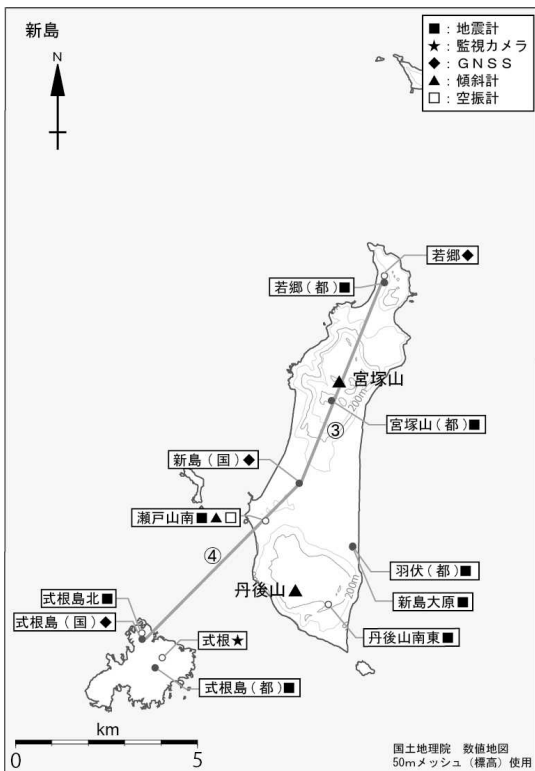


図5 新島 観測点配置図  
 GNSS 基線は図2の③、④に対応しています。

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(都) : 東京都